

令和3年度 研究報告書
(令和2・3年度 米原市教育委員会指定 教育研究推進校)

米原市立伊吹山中学校

1 研究領域 教科指導

2 研究主題

「確かな学力を育み、子どもの学ぶ力を向上させる伊吹山中プランの推進」
～読み解く力・表現力の育成と生徒が主体的に学びに向かう授業づくり～

3 研究の経緯および研究内容

(1) 主題設定の理由

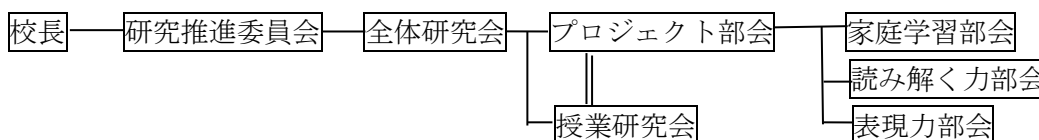
令和3年度より完全実施の新学習指導要領では、近年の情報化・グローバル化の加速度的進展やAIの飛躍的な発達等に伴う予測困難な社会の変化に対し、主体的に向き合って関わり合い、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力の育成が求められており、本校においても、新しい時代に必要となる資質・能力の育成は重要な課題であると考えます。

本校では令和2・3年度に「米原市教育委員会指定教育研究推進校」の指定を受け、これまでの校内研究実践をもとに、令和2年度は「学ぶ力」の向上をめざして、本校の学ぶ力向上の取組と授業を連動させた学習活動の展開、地域に根ざした学習活動の展開、ICT活用による授業の構造化・共有化・ビジュアル化の推進を基本の柱とした実践的な研究を進めてきた。

令和3年度は、昨年度の研究実践をふまえ、本校の「主体的な学びに向かう授業づくり」の基盤として「学びの土台となる“基礎基本”の定着」「学びを深める“読み解く力”の育成」「学びを確かなものにする“表現力”の育成」を重点課題として焦点化し、この3点が相互に関連し合う主体的な学びを構築することにより、生徒がわかる、できる喜びを実感し、生きる力の基礎を培うことができるであろうと考えた。

(2) 研究体制

教職員が少人数で3プロジェクト部会（家庭学習、読み解く力、表現力）に分かれ、部会ごとに研究実践を進め、全体研究会で実践成果の共有と共通理解を深める体制をとった。



○プロジェクト部会

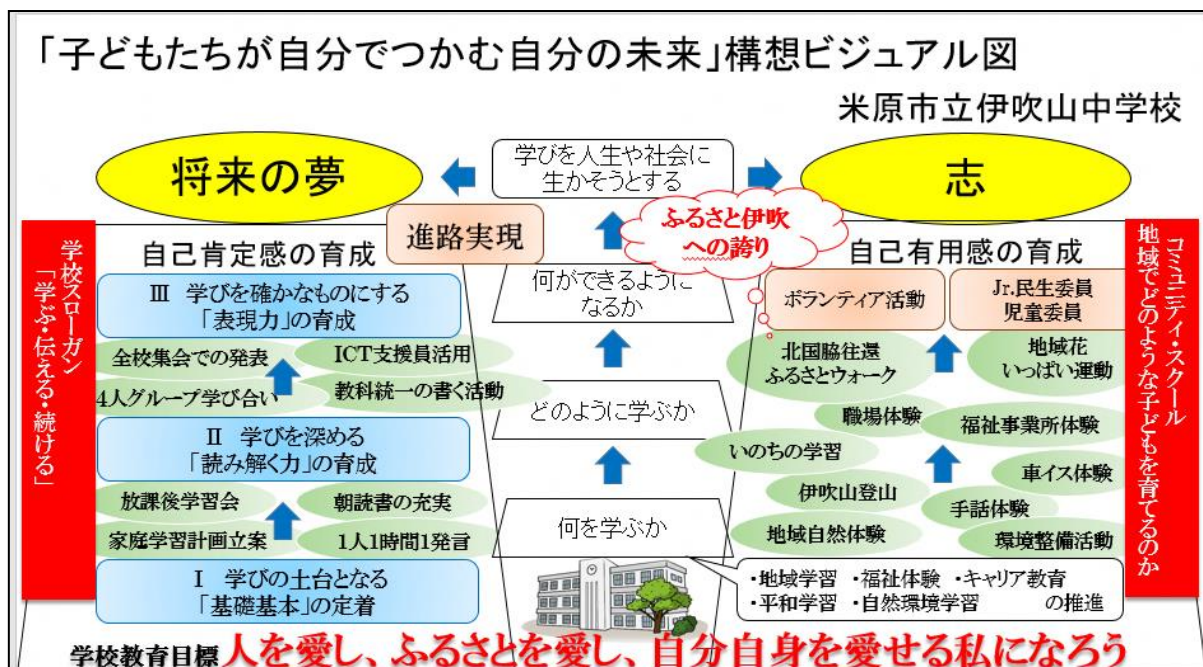
- ◆部会を編成し、部会ごとに教育実践計画の策定、実行
 - ・部会での協議および全体会での検討、実践

○授業研究会

- ◆授業研究、授業研究会の実施
 - ・年3回の全体授業研究会、全職員の研究授業
 - ・プロジェクト部会のテーマに沿った授業実践（1人年1回の公開授業）

また、校内研究組織を本校の「子どもたちが自分でつかむ自分の未来」構想ビジュアル図内に組み込み、本校の教育活動全体の中に位置づけた。

- ◆「家庭学習」部会…学びの土台となる「基礎基本」の定着に向けた、家庭学習の充実
- ◆「読み解く力」部会…学びを深める「読み解く力」の育成
- ◆「表現力」部会…学びを確かなものにする「表現力」の育成



(3) 研究計画

全体計画を踏まえて、各部会の年間活動計画に基づき、以下の要領で研究実践を進めた。

- ・各プロジェクト部会提案による全体授業研究会（実践事例報告会）を開催する。
- ・1人年1回の公開授業により、随時、プロジェクト相互の交流を図る。
- ・定期的に学習アンケートを実施し、生徒の学習状況の把握に努める。（下表中※の月）

◆各プロジェクト部会の研究内容および年間計画

| | 「家庭学習」部会 | 「読み解く力」部会 | 「表現力」部会 |
|------------|--|---|---|
| 部会の主な取組・重点 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の質・量の向上 ・主体的な家庭学習の取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業での読み解く力の焦点化（発見・蓄積・分析・整理・再構築） ・学び合い学習の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用による発表機会の充実 ・振り返り活動の工夫 |
| 具体的な実践内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に関するアンケート調査・分析 ・伊吹山中版「家庭学習の手引き」の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習過程の「見える」化（タブレット・付箋等の活用） ・他者との学び合いからの読み解きの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・めあて提示の工夫と振り返りの文章表記 ・ICTを活用したプレゼンテーション交流 |
| 1学期 | 全体研究会【研究内容・研究計画の検討、各部会研究実践計画の立案】 | | |
| 4月 | | | |
| 5月※ | ・アンケート実施 | | |
| 6月 | ・アンケート結果分析 | ・社会科 公開授業 | ・社会科 公開授業 |
| 7月 | ・家庭学習の手引き作成 | | ・英語科 公開授業 |

| | | | |
|---------------|---|----------------------|-----------|
| 夏季休業中 8月 | 全体研修会【「主体的な学び」について】 全体研究会【家庭学習部会 実践事例報告】 | | |
| 2学期前半 9月※ | ・学活 公開授業 ・手引きの実践と観察 | | |
| 10月 | | ・理科 公開授業 ・道徳 公開授業 | 国語科 公開授業 |
| 2学期後半 11月※ | 全体研究会【読み解く力部会 授業研究会（英語科）】 | | |
| 12月 | ・数学科 公開授業 ・実践の振り返り | ・実践の振り返り | ・実践の振り返り |
| 3学期 1月 | ・実践事例集の整理 | ・実践事例集の整理 | ・実践事例集の整理 |
| 2月 | 米原市調査研究発表大会【市教育委員会指定教育研究推進校発表】 | | |
| 3月 | 全体研究会【本年度研究の総括、次年度への提言】 | | |

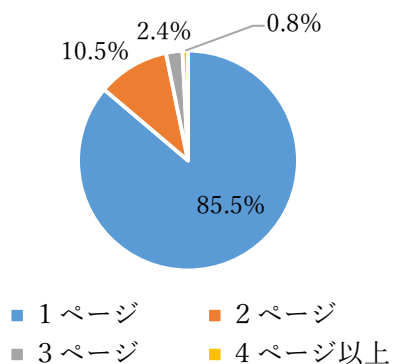
4 研究実践事例

(1) 「家庭学習」部会の実践

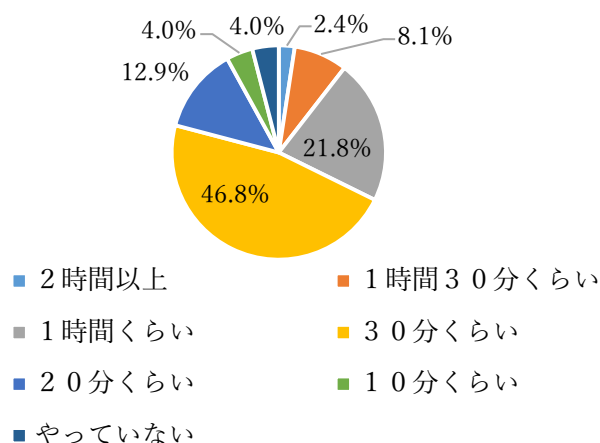
「家庭学習」部会では、5月に実施した学習アンケートの結果を受けて、さらに調査項目を細分化した家庭学習状況についてのアンケートを実施した。その分析をふまえて、本校生徒の家庭学習基盤の充実に対して、以下のアプローチを行った。

①家庭学習ノートの取組に関するアンケート結果分析

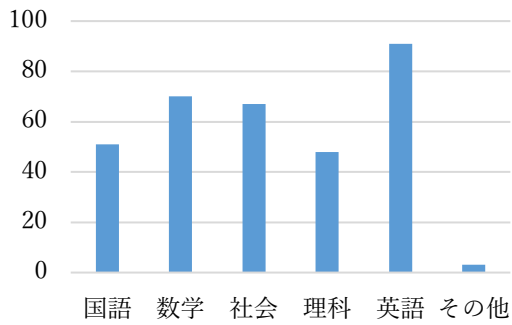
I 1日に取り組むページ数



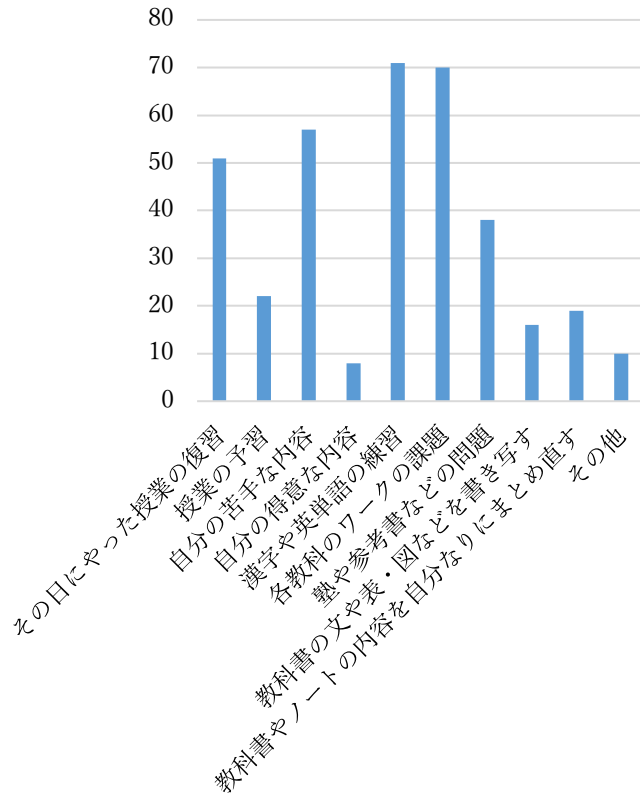
II 家庭学習ノート1ページにかける時間



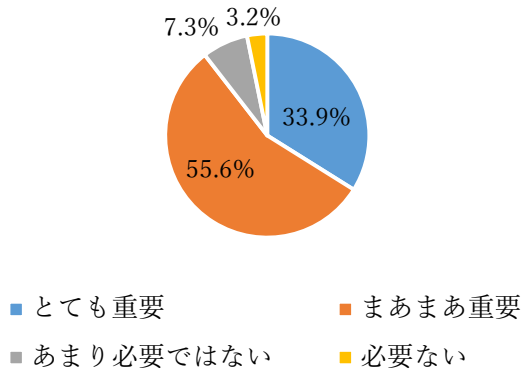
Ⅲ主に取り組む教科



Ⅳ学習内容



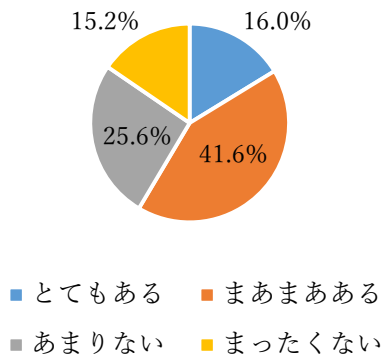
Ⅴ家庭学習ノートに対する考え



Ⅵ家庭学習ノートが重要だと考える理由

- ・ 苦手な教科などのふり返りをしたら、苦手を克服できるかもしれないから。
- ・ 頭に入るだけでなく、ノートをまとめる力もつくから。
- ・ 問題をくり返し勉強できるから。
- ・ 家庭学習ノートにもう一度まとめ直すことで、より深く学びが身につくから。
- ・ 毎日の積み重ねが大切だから。
- ・ 授業の予習・復習ができるから。

Ⅶ友だちの学習法・工夫に興味がありますか



Ⅷ家庭学習ノートの取り組みで、困っていることや悩んでいること

- ・ テキスト学習がないときの内容が困る。
- ・ ノートを提出できないことが多くある。
- ・ 長く続かない。 ・ する内容が思いつかない。
- ・ 思い通りにうまくまとめられない。
- ・ 1回見ただけで覚えやすいようなノートづくりができるようにしたい。
- ・ 長い休みになると、授業がないので、する勉強がない。
- ・ まとめ方の方法がわからない。
- ・ 国語の文章問題や図を使う問題をどうやって、ノートにやればいいのかわからない。

以上の分析結果から、多くの生徒が家庭学習ノートを重要ととらえ、毎日30分から1時間かけて取り組む習慣化ができてきていることがわかる。

ただ、どのような内容の学習をすればよいか悩み、友だちがどのように学習しているか興味をもっている生徒も一定数存在する。そのため、具体的な学習の仕方を示す必要があると考えた。

②「家庭学習の手引き」の作成

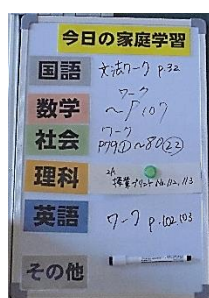
上記アンケートの結果をふまえ、家庭学習の質と量の向上を目指し、伊吹山中版「家庭学習の手引き」を作成した。紹介する学習内容を以下の2つのステップに分けて提示した。

- ◆ステップ①…家庭学習をどのように進めていけばよいかわからない・悩んでいる生徒や基礎的な学力をつけたい生徒向けの内容
- ◆ステップ②…ステップ①の内容はすでに取り組んでおり、さらに発展的な学習に挑戦したい生徒向けの内容

家庭学習で力をつける！

家庭学習の手引き 米原市立伊吹山中学校

| 教科名 | ステップ① | ステップ② |
|-----|---|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字を繰り返し(10回以上)書いて覚える。(漢字ノートを活用) ・教科書を音読し、意味のわからない言葉は辞書を引いて調べる。 ・授業で習った範囲のワークをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新出の漢字や語句については、意味を覚えて短文を作れるようにする。 ・ワークの読解問題で、問いや問いの答えについて教科書を読みながら確かめる。 ・ワークの記述式の問題は空欄にせずに、必ず自分の言葉で書けるようにする。 |
| 数学 | <p><基本的な問題を数多く解くこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に解いた問題を、もう一度解いてみる。 ・授業で習った範囲のワーク(基本編:見開き左ページ『A』)を必ず丸付けをして、できなかった問題の解き方や間違えた理由を理解した上で、同じ問題ができるようになるまでチャレンジする。 | <p><発展問題に多く触れよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章題に積極的に触れ、考える時間をしっかりもつこと。 ・授業で習った範囲のワーク(発展編:見開き右ページ『B、C』)に時間をかけて取り組むこと。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で習った重要な語句を漢字で書けるように繰り返し練習して覚える。(ワークの重要語句チェックを活用) ・家庭学習ノートに授業ノートを写し直す。 ・地名が出てきたら必ず地図で場所をチェックする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で習った重要な点やポイントをノートにまとめる。 ・教科書章末のまとめやワークの章末総合問題に取り組む。 ・歴史上の事柄は、流れを年表で確認する。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の太字の語句・用語をまず書けるようにし、次にその意味を調べ覚える。 ・授業で習った重要なポイントをノートにまとめる。 ・授業で習った範囲のワークや教科書の基礎・基本問題を解いてみる。 丸付けをして、間違えた問題をやり直す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験については、方法や手順、結果から何がいえるかを自分なりにノートにまとめる。 ・授業で習った範囲のワークや教科書の問題を解いた後、発展・応用問題にチャレンジする。丸付けをして、間違えた問題をできるまでやり直す。 |
| 英語 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で習った範囲のワークをする(特に STEP1・2を中心に)。丸付けをして、できなかった問題は、くり返し取り組む。 ・授業で習った単語や熟語を、見なくても書けるようになるまで繰り返し(10回以上)書いて覚える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・英文を日本語に直したり、日本語を英文に直したりして、英文が書けるようにする。 ・教科書本文の内容、与えられたテーマについて自分の考えや経験などを英語で書く。 |



また、家庭学習を円滑に進めるために、各学級に家庭学習内容を示すホワイトボード「今日の家庭学習」を設置し、次の手順を示した。

- ①各教科担当教員は、授業の終わりに、その日の授業で学習した内容のワークのページをホワイトボードに記入する。
- ②帰りの会で、各自が取り組む教科名とワークのページをメモする。
- ③家庭学習ノートを使って、メモしたワークの問題に取り組む。

③第1学年学級活動の授業実践

○単元名 家庭学習の取組を見直そう

○本時のねらい

「学習の手引き」を参考にして学習に取り組む活動を通して、今の自分の取組を見直し、よりよい取組をしようという意欲を育てる。

○本時の流れ

| | 学習内容 | 生徒の活動 |
|--|--|--|
| 導入 | 1. 家庭学習ノートに関するアンケートの結果(全校生徒対象)を知り本時の課題を捉える。 2. 本時のめあてと学習過程を知る。 | ・家庭学習ノート1ページにどのくらいの時間をかけているか、どのような学習内容に取り組んでいるかなどの実態を知る。 ・普段の自分の取組について振り返る。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 家庭学習の手引きを使って、よりよい家庭学習の方法を見つけよう。 </div> | | |
| 展開 | 3. 「家庭学習の手引き」の内容を知る。 (1) 「学習の手引き」を読み、自分に必要だと感じた学習内容をワークシートに書き出す。 (2) (1)で書いた内容から1つ選び、実際に学習をする。 4. 学習した内容をグループで交流する。 | ・「学習の手引き」から、今の自分の取組を改善したり、悩みを解消したりするために有効だと感じる方法を見つけて、ワークシートに記入する。 ・10分間、選んだ学習内容に取り組む。 ・取り組んだ教科・内容・工夫点を交流し、自分の取組について話したり、友達の取組を知ったりする。 |
| まとめ | 5. 本時の感想を書く。 6. 教師の話聞く。 | ・「学習の手引き」の内容で学習に取り組んでみたり、友達の学習内容を見たりして思ったことをワークシートに記入する。 |

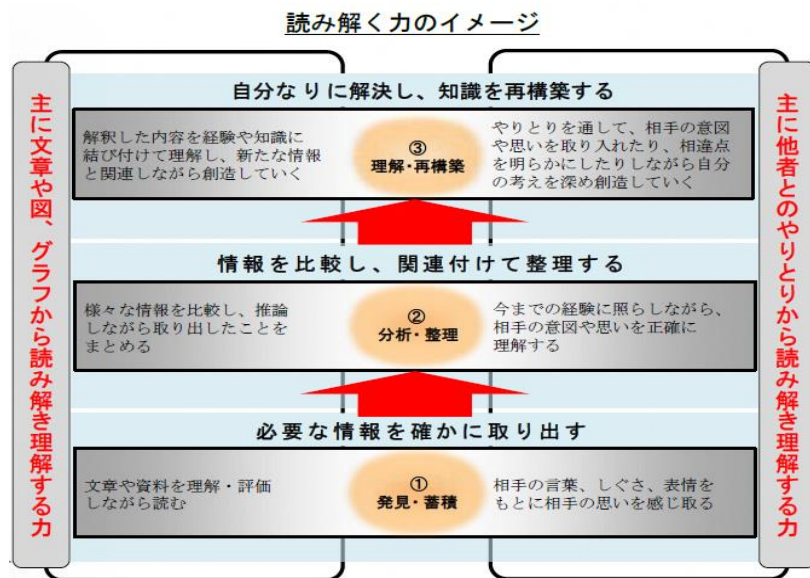
○考察

- ・「学習の手引き」を参考に今まで取り組むことがなかった内容にチャレンジすることで、偏りなく学習しようという意欲につながった。
- ・学習内容を交流したことで、友達の学習方法を知ることができ、これからの取組の参考することができた。
- ・『勉強方法がわかると、長く勉強ができそう』という意欲を示した生徒も多く、今まで学習方法がわからなかったことで、十分に学習時間を確保できていない生徒に有効であった。



(2) 「読み解く力」部会の実践

本校では従来から授業改善の手立ての一つとして、4人グループによる、学び合い学習を展開してきた。そこで、「読み解く力」部会では、学ぶ力向上滋賀プランに基づいて「読み解く力」を構造化（下図参照）し、学び合い学習のねらいの焦点化を図った。また、他者とのやりとりからの読み解きを円滑に進めるため、ICT 機器、ホワイトボード、付箋等、学習活動の「見える」化ツールの活用に努めた。



※左図
第2期学ぶ力向上滋賀プラン
～「読み解く力」の育成を目指して～（滋賀県教育委員会）
より

①第2学年英語科の授業実践

○単元名（題材名）

Unit 6 Research Your Topic & Research and Presentation
(New Horizon English Course 2)

○単元（題材）の目標

ALT に自分たちのことをよりよく知ってもらうために、身近なトピックに関する調査とその結果発表を読んで理解し、自分たちのクラスで人気のあるものやことについて、その結果や自分の考えをまとまりのある内容で話すことができる。

○児童(生徒)が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

| | |
|--|--|
| <p>【「読み解く力」の二つの側面】</p> <p>A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力</p> <p>B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p> | <p>【「読み解く力」の三つのプロセス】</p> <p>①…発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す</p> <p>②…分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する</p> <p>③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する</p> |
|--|--|

| | |
|--|---|
| <p>【A①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 (P. 84～97) の内容理解を通して、調査結果を伝えるために活用できる表現（比較表現等）を理解する。 | <p>【B①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員のモデルを見て、発表方法の工夫に気付く。 Mini Activity や Small Talk で比較表現を使いながら、その意味や語順等に気づき、理解する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 調査結果を伝えるために活用できる比較を表す語や表現に着目しながら読む。 Mini Activity や帯活動 (Small Talk) に継続して取り組むことで、新出語彙や表現への気づきと理解を深める。 | |

| | |
|---|---|
| <p>【A②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果を分析し、結果を示す図表やグラフなどの資料を基に、聞き手に伝える内容を整理したり話の展開を考えたりする。 | <p>【B②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 録画した映像や友達の発表を基に自分の発表を振り返るとともに、友達からのアドバイスや中間指導を生かし、再度聞き手に分かりやすい話の展開になっているか吟味する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 調査結果を分析し、効果的に伝えるための資料を基に、伝える内容を整理したり話の展開を考えたりする。 友達からのアドバイスや中間指導を参考に、聞き手に分かりやすい展開、内容、伝え方になっているか吟味する。 | |
| <p>【A③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実や考えなどを整理し、資料を効果的に活用しながら聞き手に分かりやすく発表する。 | <p>【B③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達からのアドバイスや中間指導等を生かし、聞き手がさらに知りたい内容を加えたり、問いかけなどの工夫をしたりして、分かりやすく発表する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 友達からのアドバイスや中間指導を生かし、伝える内容を精査したり、聞き手に問いかけたりするなどの工夫をする。 | |

○本時の目標（本時：12/13時間目）

ALTへの発表に向け、調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で友達に話すことができる。

○本時の展開 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に关わる留意点や評価規準

| | 主な学習活動等 | 指導上の留意点(・) ICTの活用(☆) 評価規準(□) |
|--|---|--|
| 2分 | 1. めあての確認 | ・本時の流れとめあてを明確に示す。 |
| <p>Today's Goal: ALTへの発表に向けて、調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で友達に話すことができる。</p> | | |
| 12分 | 2. グループ発表 <ul style="list-style-type: none"> グループ内で発表し合う。(☆録画) 聞き手は、反応や質問、フィードバックを述べたりする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Presenter : My presentation is about school lunch. 90% of our classmates like school lunch. Our classmates like school lunch better than lunch boxes. "Age pan" is the most popular food in our class. Please try it. Thank you. A : "age pan"ってデバンテ先生に分かるのかな？ B : Why do our classmates like school lunch?</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> 聞き手は、反応や質問、あるいはフィードバックを1発表につき1回以上することを事前に伝えてから、グループ発表を行う。 フィードバックで使えるような視点を板書しておく。 |
| 10分 | 3. 中間指導 <ul style="list-style-type: none"> 次の3つの視点から中間指導を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>①内容の工夫(相手意識) ②調査結果(事実)＋感想・考察(自分の考え) ③文法的な誤り等言語面の指導</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> グループ発表で見つけた生徒の姿を価値付けながら、中間指導を3つの視点から行う。 ①内容の工夫(相手意識) <ul style="list-style-type: none"> 聞き手を意識した内容を価値付ける。 ALTは、さらに知りたい内容を生徒に伝える。 ②調査結果(事実)＋感想・考察(自分の考え) <ul style="list-style-type: none"> 特に優れていた感想・考察を取り上げ、価値付ける。 ③文法的な誤り等言語面の指導 <ul style="list-style-type: none"> 気になる誤りを板書し、ペアで間違いについて正しく直させ、言語面の正確性を高める。(比較表現、接続詞、単数複数 など) |
| | 4. 個人で修正 <ul style="list-style-type: none"> 録画した映像や友達からのフィードバック、中間指導を参考に、自分の発表を見直し、展開や内容、伝え方を吟味する。 | <ul style="list-style-type: none"> 録画した映像を活用し、修正点に気付けるような声かけをしたり、積極的に教員にたずねたりするように促す。 本時のめあてを再度確認しながら、中間指導が生かしているかを見届け、フィードバックをする。 |

| | | |
|---------|--|---|
| 10 分 | <p>5. グループ発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 修正した部分を意識してグループで再度発表し、録画した映像を個人で振り返る。(☆録画) 録画した映像を提出する。 | <p>②調査結果(事実)＋感想・考察(自分の考え)</p> <p>①内容の工夫(相手意識)</p> <p>・録画した映像を活用し、本時のめあてに沿って振り返りをさせ、次時のパフォーマンステストで気を付けたいこと、できるようになりたいこと等について書くように促す。</p> |
| 13 分 | <p>Presenter: My presentation is about school lunch. 90% of our classmates like school lunch. Our classmates like school lunch better than lunch boxes because we can eat a hot meal. "Age pan" is the most popular food in our class. <u>Do you know it? It's fried bread with soybean flour.</u> According to the Internet, "age pan" is the most popular food in Japan. So, please try it. Thank you.</p> | |
| 3 分 | <p>6. 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 録画した映像を見ながら、本時のめあてに沿って本時にできるようになったことを振り返り、次時への見通しをもつ。 | |

○考察

- 本授業の読み解く力の重点である「再構築」については、1回目の発表後、フィードバックの時間や個人の修正時間を長めに確保した。その結果、フィードバックをもとにさらに書きたいことを生み出す姿や仲間と共に課題へ向かう姿など、「読み解く力」を発揮する姿が見られた。
- 仲間の発表を評価することで、自己の理解を深めることができています。
- 録画された自分の発表する姿を見ることで、表情、目線、話すスピード等を客観視でき、2回目の発表では相手を意識して発表しようとする姿が見られた。
- 「ICTの活用」については、スライド上のキーワードやグラフを頼りに、自分たちが調査した結果や感想など、相手に伝えたい内容について、原稿を見ずに自分の言葉で伝えることに挑戦することができた。

②その他の授業実践例(「読み解く力」の学習展開)

◆第1学年 社会科

- 古代文明ごとに色分けした付箋に、各自で特色を記入。[→発見・蓄積]
- 4人グループでA3紙上に共通項目ごとに付箋をまとめる。[→分析・整理]
- 他グループに説明する2人と他グループの説明を聞く2人に分かれ、他グループと交流。
- 他グループから受けた説明を自分のグループに報告。
- 役割を交代して、他グループと交流、報告。[3～5→理解・再構築]

◆第3学年 道徳

- 中心発問について、ワークシートに各自の意見を記入する [→発見・蓄積]
- グループで意見を交流、ホワイトボードにまとめる [→分析・整理]
- ホワイトボードを黒板に掲示、意見を発表・交流する [→理解・再構築]

←第1学年社会科

第3学年道徳→

(3) 「表現力」部会の実践

「表現力」部会では、「書く力」をはじめとする生徒のアウトプット能力の向上を図るべく、「何を表現するか」「どのように表現するか」の2つの視点からのアプローチを行うべく、ICTを活用した表現機会を増やす取組ならびに学習の振り返り等による文章表記の継続指導を中心とする実践を進めた。

①第3学年美術科の授業実践

○題材名 思いを込めて、彫塑で表現したいもの

○授業のねらい

- (1) 自分の表現したい思いを、手の立体作品制作を通して表すことができる。
- (2) 作品を鑑賞して、作者の思いを想像することができる。
- (3) 文章として、思いを表現することができる。

○指導過程 (2時間目/全10時間)

| 段階 | 学習活動 | 形態 | 指導上の留意点 | 評価 |
|-----------|---|--------------------------|--|-----------------------------------|
| 導入 10分 | 1 本時の課題をつかむ ・作品を鑑賞し、作者の思いを読み取り、文章に表現することができる。 ・自分の表現したい思い(感情)について考える。 | 個人 一斉 個人 一斉 | ・題材のポイントを確認する。 ・オクリンクを使用する。 ・ワークシートを使用する。 | 構想 ・ワークシートへの記述 |
| 展開 30分 | 2 作品の写真を見て、どのような意味が込められているか考える。作品から読み取った思いを選択し、その理由を文章で表現する。 | 個人 一斉 | ・それぞれの考えを共有できるようにさせる。 生徒自身が考えたことであり、正解も不正解もないことを理解させ、素直な思いを表現させる。 | 知識 構想 ・オクリンク内のカードへの記述 |
| | 表現活動1：参考作品から読み取ったことの文章表現 | | | |
| | 3 クラスメイトが考えたことを見て、それぞれの考えを共有する。 | 一斉 | ・作品の感想は見た人により、微妙に違うということを気づかせる。自分の思いを込めることで、作品がより豊かになることを学ばせる。 | 知識 ・作品、友達の意見を鑑賞して学んだことについてのメモ等 |

| | | | | |
|---------------------------------|--|----------|--|----------------------|
| | 4 自分の表現について考える。 ワークシートに自分の思いについて、文章表現する。 | 個人 一斉 | ・どのような表現にしようか、表現したい思いを明確にした文章にさせる。例文を用意しておく。 | 構想 ・アイデアスケッチ等への記述 |
| 表現活動 2 : 参考作品、友達の考えから学んだあとの文章表現 | | | | |
| 終 末 10 分 | 5 本時の振り返りを行う。 | 個人 | ・本時の活動を振り返り、次回につながるように考えられたか、記述させる。 | 主体的 ・オクリンクでの記述 |

○考察

- ・ 作品イメージの考えを整理・確認して文章表現を通してまとめる活動を組み入れた。
- ・ タブレットを使用したことにより、興味を引き出せたが、タブレットを扱うことの作業に時間がとられ、交流の時間が十分に確保できなかった。表現した内容の交流の時間確保が課題である。
- ・ 表現活動 1 で参考作品に対して具体的に表現することで、自分の作品に対する考えを深めることができた。
- ・ ICT の活用により、表現機会が充実している。授業支援ソフト（オクリンク）の活用により、思考の可視化の点で効果があった。
- ・ 文章で表現することで作品に対するイメージができた。
- ・ 感情のバロメーターのグラフは、自分の考えをまとめやすくするためのスモールステップとして、学力低位の生徒にも取り組みやすかった。
- ・ 前回の振り返りを確認することで、本時や次時の学習への目標設定につながり、単元を意識する上でも有効である。
- ・ 文章記入ワークシートの例文は、文章表現が苦手な生徒には参考になるが、類似する文章を書いてしまうことにもつながる。個々への指導の工夫が必要。
- ・ ICT の活用は表現イメージを視覚化する効果があり、生徒が慣れてくると使用しやすくなる。文字の大きさやバロメーターグラフの色などを配慮すると、さらに視覚効果が上がると思われる。



②「書く力」を高める取組

書く力を高めるために各教科等で実践した取組例を以下にあげる。

◆国語科

- ・ 120文字～140文字程度の課題作文を定期的実施している。
- ・ 単元ごとに学習の振り返りを文章で表現させる。
- ・ 道筋を示して記述ができるように指導する。
- ・ 長文を書く場合は、メモや順番を考えて書く指導を行い、書き方のテクニックの向上を図る。
- ・ 物語文、説明文の単元において初読の感想の書き取りを継続的に続けている。

◆数学科

- ・ 授業の中で新たにわかったことや、気づいたことを記述できる欄を設けたノート指導を行う。
- ・ 記述式の問題を多くし、書き方の指導を行う。

◆社会科

- ・ 学習プリントを作成し、文章で答えなければならない質問を多く設けている。
- ・ 振り返りの時間をしっかり確保する。
- ・ ノート右側に板書以外のメモを取る欄をつくり、メモを取りながら話を聞く指導をしている。
- ・ ノートを1単元1ページとし、ノートの下2～3行の欄に単元ごとの学習の振り返りを文章で記述させる。

◆理科

- ・ ワークシートに「自分の考え」の欄を設け、自分の身近な視点、科学的な見方で答えるように指導している。
- ・ 学習の振り返りの中で、重要語句の説明を自分の言葉でまとめ直す活動を取り入れる。
- ・ 観察からの仮説、実験からの考察を文字で書かせることをパターン化させる。

◆英語科

- ・ テーマに沿って、指定文字数以上の文章で表現する活動を取り入れている。
- ・ 4人グループで文章を回し読みし、それをもとにさらによりよい英作文を個人で書く。
- ・ 課題に対して意見を交流し、イメージを膨らませてから書く活動に取り組む。
- ・ 振り返り用紙に、その日に学んだ大切な「表現」を書く指導をする。
- ・ 学習した文法を使っての自由英作とその指導を行う。

◆美術

- ・ アイデアスケッチと同時に文章での構想の説明の記述指導を行う。
- ・ 鑑賞の単元において、作品の文章表現をしやすくするためワークシートの工夫をする。

◆道徳

- ・ 授業の振り返り、一番深く考えたこと、心が揺れたことなどを理由と共に、文章でまとめる活動を取り入れる。
- ・ 「道徳川柳」を取り入れ、決まった字数で学びを表現させる取組を実施している。

◆その他

- ・ 生活ノートに毎日120文字の記述をする指導を行う。

5 研究の成果と課題

①「家庭学習」部会

◆研究の成果

- ・アンケートを実施し、生徒たちの実態を把握してから学習の手引きを作成したことで、より本校の生徒たちが取り組みやすい内容にすることができた。
- ・家庭学習の手引きを参考にすることで、やることがわかって家庭学習に長く取り組むことができ、学習内容を考える時間の削減にもつながった。
- ・今まで同じ教科や同じような内容で家庭学習に取り組んでいた生徒にとって、「他の教科に取り組んでみよう。」「いろいろな教科を均等に組みよう。」という動機付けになった。
- ・「今日の家庭学習」として、ホワイトボードに明示することで家庭学習に取り組む内容が分かり、今まで家庭学習ノートに取りかかりにくかった生徒が取り組めるようにもなった。

◆今後の課題

- ・継続するための手立ての工夫が必要である。
- ・基礎学力が十分でない生徒にとっては、ドリル学習を取り入れることも効果的ではないか。
- ・計画を立てて学習を進める部分ができない生徒も多い。そのための手立てなどが必要である。

②「読み解く力」部会

◆研究の成果

- ・教科書の文章、図、グラフ等を読み取る活動を意識的に取り入れたことにより、教科書を有効に活用する生徒が増えた。
- ・他者とのやりとりや資料の読み取りを通して学習過程が意識できたため、具体的にできるようになった点を振り返りに記すことができる生徒が見られた。
- ・教科だけでなく、学級活動、道徳、総合的な学習の時間でもペア学習やグループ学習の手法が活用できた。
- ・切り返しの発問など、教師がファシリテーターとしての役割を意識して授業を構成することができた。

◆今後の課題

- ・基礎学力の定着の度合いや話し合い活動への積極性等、学習集団の特性は様々であり、学習集団に応じた指導の工夫が必要である。
- ・何のためのグループ学習か、グループ学習で何を学ぶのかという学習の目的、必要性を明確に提示することが不可決である。
- ・授業構成のゴールイメージをもち、指導と評価の一体化を図ることが必要である。

③「表現力」部会

◆研究の成果

- ・ICTの活用により全体交流が円滑に進み、生徒も興味・関心をもって学習に取り組むことができた。また、図表等も表現手法として手軽にわかりやすく使用できた。

- ・学習の振り返りの文章表記を定期的に行うことで、「書くこと」に対する苦手意識は減ってきている。また、振り返りの視点を細分化して提示したことで「～ができた」「～がわかった」のみの表現がなくなった。
- ・調べたことを文章にまとめる活動で、当初は教科書を写すだけであったものが、自分の考えを書くようになった。
- ・生徒の表現力を育てる機会として、生徒会主催で月例の生徒集会を行うことができた。

◆今後の課題

- ・ICTの使用については、本来の学習活動の展開の他に、生徒の活用スキルの差が出る。
- ・ICTの使用にあたり、環境整備や指導者のスキル向上が求められる。
- ・書くことが苦手な生徒には、ある程度の型がある方が書きやすいが、次の段階として自分のアイデアをどのようにアウトプットさせていくかが課題である。

④研究実践全体を通して〈学習アンケートをもとに〉

年間計画に基づき実施した学習アンケートの結果を以下に提示する。

下表は「A…あてはまる・B…どちらかといえばあてはまる・C…どちらかといえばあてはまらない・D…あてはまらない」の選択回答のうちA・Bの合計数を肯定値として表している。

◆学習アンケート [肯定値(A+B)%]

| 質 問 項 目 | 実 施 時 期 | | | |
|---|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | 2021年 11月 | 2021年 9月 | 2021年 5月 | 2020年 11月 |
| ア 平日の家庭学習の時間は、どれくらいですか？ (肯定値…2時間以上) | 58.9 | 42.7 | 43.0 | 40.6 |
| イ 家で、自分で計画を立てて勉強していますか？ | 59.7 | 54.8 | 60.9 | 53.4 |
| ウ 授業の内容はよくわかりますか？ | 87.9 | 89.5 | 95.3 | 89.5 |
| エ 授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか？ | 79.0 | 75.6 | 84.4 | 63.9 |
| オ 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか？ | 81.5 | 78.2 | 81.3 | 85.0 |
| カ 自分の考えや意見をうまく文章にまとめることができますか？ | 66.9 | 62.9 | 64.8 | — |
| キ 自分には、よいところがあると思いますか？ | 72.6 | 78.2 | 75.0 | 65.4 |
| ク 友だちのよいところを認め合って学校生活を送っていますか？ | 95.2 | 96.0 | 93.7 | — |
| ケ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか？ | 71.0 | 71.8 | 66.4 | 69.2 |
| コ あいさつや返事をしっかりして、相手とのより良い関係をつくろうとしていますか？ | 93.5 | 97.6 | 95.3 | — |

*上表中カ・クは2021年度に質問表現変更、コは新設項目のため、2020年11月の対比資料なし

アンケート設問のうちア・イは「家庭学習」、エ・オ・カは「読み解く力」ならびに「表現力」の各部会の取組に対応するものとして、以下に考察を行う。

設問ア・イの家庭学習関連項目については、昨年11月の結果から大きく肯定値が上昇しており、「家庭学習の手引き」の作成等、生徒の実態に応じた今年度の具体的な学習支援の効果が現れたものとする。特に設問イの主体的な学習計画について、1年生の肯定値は9月の56.3%から11月は63.6%と伸びており、中学校での学習に適応する上での家庭学習への支援が効果的であったことがわかる。

設問エの主体的な課題解決学習への取組に対する項目も、昨年11月の結果から大きく肯定値が上昇しており、「学習課題を読み解き、自分の意見を表現」していく活動に対する学習支援の効果が現れたものとする。

設問カの記事表現については、他の項目より肯定値は低いものの全学年が60%を上回っており、特に3年生では肯定値は71.1%に上っている。様々な場面での「書く力」を高める取組が効果的であったことがわかる。

本研究は、プロジェクト部会に分かれての取組であったが、土台となる共通実践として
A：全教室共通のカードを使用した「本時のねらい」「本時の流れ」「振り返り」の提示により学びの共有化を図る。

B：4人グループによる学び合い活動の場面を授業構成に取り込む。

C：電子黒板、タブレット等のICT機器を有効に活用する。

の3点を取り入れており、この共通実践を通して各部会の取組を融合していくことができた。設問オのグループ学習に対する肯定値は昨年度から引き続き高い数値を示しており上記A・Bを中心としたプロジェクト部会の実践の効果が現れたものとする。

以上の取組の成果が融合して、設問ウの授業理解の高い肯定値につながっているものとする。この学習に対する「わかる、できる喜び」は自己肯定感の育成につながり、本校の学校教育目標である「人を愛し、ふるさとを愛し、自分自身を愛せる私になろう」の具現化につながるものとする。設問キ・ク・ケは、それぞれこの教育目標の「自分自身」「人」「ふるさと」に対応している。なお、設問コは本年度の本校の取組重点の一つであり学習集団形成に不可欠な円滑なコミュニケーションを目指すものである。また、設問ケは本校の目指す自己有用感（P2図参照）の育成にもつながるものである。それぞれ、高い肯定値を示していることを本年度の研究の成果としてあげたいとする。

本研究実践を通して、研究主題に掲げた「確かな学力を育み、子どもの学ぶ力を向上させる伊吹山中プランの推進」に向けて、具体的な方策を見出すことができた。一方、各部会の取組を通して、今後の実践に向けて解決すべき課題も明確になった。（P13・14参照）

次年度も本研究を継続し、生徒が主体的に学びに向かう授業づくりを進めていきたい。